



かがり火と牛乳パックで作った灯ろうが並び幻想的な空間に



夕方の軒先で民話の語りを楽しむ子どもたち



小学生が夏休みに作った牛乳パック灯ろう約250個が9月24日、カミガツジプラザに並べられ、幻想的な景色を多くの人が足を止めて見ていた。

9月25日・26日には商店街通りで、昭和30年代の活況あふれる商店街の雰囲気再現した「れとろーど」が開かれた。25日の夜、訪れた人たちは約1kmの通りを歩き、建物や生け花のライトアップに魅せられながら、語りや歌、紙芝居を楽しんでいた。

# 宵よいあかり

日が西に沈み、  
空が紺碧こんへきの色になるころ  
通りや広場にさすほのかな明かりが、  
行き交う人々を、あたたかく包む。  
そこには笑顔がある。



ライトアップされたまちかど郷土館。通りを行きかう人々に昭和30年代の活況を感じる



通りの脇で行われた紙芝居が人気を集めていた



玄関先の土間で歌を楽しむ人々